

信じられない悪の集団——その2



The New World Order Existed Long Ago

ロスチャイルド一族が国際的奴隷貿易を始める。それは、これら誘拐された人間たちを、単なる動物として見る事業であり、ハザール人は、自分たち悪のサークル以外の、すべての人々にこの見方を押し付ける。彼らを Old Black Nobility と呼ぶ人々もある：

ロスチャイルドの次の大きな計画は、世界的な奴隷貿易を始めることだった。それには、彼らに協力して、競争相手の部族から奴隷を誘拐してくれる、アフリカの邪まな酋長から奴隷を買うことだった。

ロスチャイルドの奴隷商人は、次に、これらの誘拐した奴隷たちを、自分たちの船の狭い檻に詰めてアメリカやカリブ海に渡り、そこで彼らは売られた。多くの者は悪条件のために航海中に死んだ。

ロスチャイルドの銀行屋たちは、ずっと前から、戦争は金儲けのすばらしい方法であり、戦っている両側にカネを貸すことによって、短時間にカネは倍増することを知っていた。しかし、その保証を得るためには、彼らは課税法を通過させねばならず、これによって支払いを強制することができた。

KM ロスチャイルドの、私的な不換ニセ札銀行屋が、アメリカの植民地主義者と、それを援助して革命（独立）戦争に敗けに導いたロシアに対し、永遠の復讐を計画する：

ロスチャイルドが、アメリカ革命（独立戦争）に敗れたとき、これは植民地主義者を援助したロシアのツァーとロシア人のためだと非難し、イギリスの商船を停めた。

彼らは、ちょうどロシア人と彼らの同盟軍が、1000 AD にハザールを押しつぶしたときのように、アメリカの植民地主義者に対し、永遠の復讐を誓った。

ロスチャイルドと、彼らを取り巻く英国の寡頭（少数）政治家たちは、アメリカを取り戻すいろいろな策を考え、これが彼らの主たる強迫観念となった。

彼らの好んだ計画は、一つのアメロカ中央銀行をつくることで、その狙いは、バビロニアのマネー・マジックと秘密のニセ札だった

ロスチャイルド KM は、1812 年、ハザール・マフィアのためにアメリカを取り返そうと試みるが、ロシアの干渉のために、再び失敗する：

この失敗はロスチャイルド KM を激怒させ、彼らは再び、ロシア人とアメリカ植民地主義者双方に対して、永遠の復讐を計画した。すなわち、その両国を乗っ取って資産を収奪し、恐慌政治によって、国家をも民衆をも集団虐殺する計画をした。

私立のアメロカ中央銀行を設立しようとする KM の試みは、アンドルー・ジャックソン大統領によって阻止された。彼はそれをサタン的と呼び、彼らを全能の神の恩寵と権能によって追い出そうとした。

ロスチャイルドの銀行屋たちは、陣を建て直し、彼ら独自のバビロンのカネ・マジック銀行の計画を、アメリカの内部に隠れて継続しようとした。

ついに 1913 年、ロスチャイルド KM は、最初の大きな足掛かりをアメリカの内部に設立することに成功する——そして、すべてのアメリカ人の悪なる敵が、アメリカの門の中へ入ってくる：

1913 年、ロスチャイルド KM は、不正で背信の議会メンバーを買収することによって、橋頭保を得たが、それはクリスマスに、必要な定足数なしに、不法で憲法違反の「連邦準備法」を通過させることによってであった。この法案は次に、それに賛成投票した議会メンバーと同じく、不正な買収された大統領によって署名された。

ロスチャイルド KM は次に、アメリカに不法な課税システムをつくりだす：

KM は、不法で憲法違反の税法を定めたが、これはアメリカの民衆が、腐敗した KM 財政による、買収されて歪んだ、議会と傀儡大統領に認証された、高額な米政府支出を支払うようにするためであった。

KM が、望む者をだれでも選ぶために、十分なカネを集めることは簡単である。なぜなら、秘密の大きなニセガネを作る銀行をコントロールするためには、必要なだけのカネは、すべて作られているからである。不法な税制度を、彼らがアメリカにつくり出した同じころ、彼らはまた議会メンバーに賄賂を使って、「内部歳入サービス」を承認させた。これは彼らの私的な税収機関であって、プエルトリコに置かれた。

その後まもなく、彼らは FBI（連邦捜査局）を設立して、彼らの銀行屋を保護させ、隠ぺいの必要に当たらせ、彼らの子ども生贖儀式やペドファイル網に対してさえ、起訴をまねがれるようにさせた。そして彼らのために、隠れた諜報活動をさえ行った。

注意しておくが、議会図書館によると、FBI には official charter（公的契約書？）はなく、存在する権利も、給料を払う権利もないという。

ロスチャイルド KM はロシアで、信じられぬほど残忍で、血なまぐさい復讐を、罪のないロシア人に対して行い、ポリシェビキ革命を展開したが、これは、彼らがハザールを破壊されて以来、長い年月、計画していたものである：

ロスチャイルド KM は、その中央銀行用いて、ロシア革命をあらかじめ演出し工作したが、それはポリシェビキのロシア侵入と、ハザール・マフィア（KM）のための革命の報酬であった。

ポリシェビキは、ロスチャイルド KM の指令の下に、女性、子供、幼時も含めて、ほぼ 1 億人のロシア人を強姦し、虐待し、大量虐殺した。虐待や放血のいくつかは、あまりに極端なので、この論文の中で説明することはできない。

しかし知りたいと思う読者は、いくつかの特殊インターネット調査の Red Terror や Bolshevik Cheka、またはクラシック映画 The Checkist のユーチューブを見ることができ。 (これについては原著の説明を参照)

ロスチャイルド - ハザール・マフィアが、再び、寄生の相手を変え、すべてのユダヤ教に侵入し、これに乗っ取る：

ロスチャイルド KM は、ユダヤ教のすべてをコントロールし、ユダヤ人たちをマインドコントロールする、マスタープランをつくり出した。彼らはユダヤ教を乗っ取り、バビロニア・タルムード（ルシファー教 or サタン教）のパターンを習得させ、銀行業やウォール街職業一般、議会、大手マスメディア、それに、ほとんどの富と、経済的な成功の手段に対するコントロールを獲得した。

このようにして、ロスチャイルド KM は、富や成功が、自分たちの教えに従うユダヤ人たちに回るように企み、彼らを注文通りの、Sayanims（モサドにコントロールされた者）にしてしまった。このやり方でロスチャイルドは、ユダヤ教をハイジャックした。

彼らの、イスラエル・クヌッセン（立法府）に対する財政と、フリーメイソンのオカルト構造を用いた、その仕組みは、彼らが、オカルトとバビロニア・タルムード教と、聖なる神バールへの子供の生贄を含む、あらゆる悪に加担していることを示している。彼らは「世界シオニズム」と呼ばれる NWO 組織を立ち上げたが、それは敏感なユダヤ教徒に、民族的優越の病的な集団妄想を教え、植え付けるもので、すべての世界のキリスト教徒は、ユダヤ教徒の皆殺しを狙っているもとを考えている。



イスラエル最高裁ビル；フリーメイソンの「世界会議」；記念コイン
フリーメイソンの建築物が、イスラエル最高裁の建物に使われた

彼らはこの人種的に病的な、世界征服の集団的ユダヤ妄想を、「世界シオニズム」と呼んだ。これは本当は、隠されたバビロニア・タルムード教、あるいはルシファー教の一形態であり、主流ユダヤ教徒の与り知らぬものである。このシステムはユダヤ教を、隠れ蓑として利用しようとしたが、同時に、彼らをバビロニアのカネの力で洗礼するためであり、彼らを注文通りの人間として、後に、2つの段階を経て、ルシファーへの生贄とするためだった。

最初の段階は、彼らの計画した、第2次大戦の物資から遮断された、ナチ強制労働キャンプであろう。それは、飢餓と病気によって20万のユダヤ人を餓死させたが、同じ原因で死んだ非ユダヤ人の同囚が、約9万人いたと、赤十字社の公的數字は言っている。この数は、ハザール・マフィア（世界シオニスト）の主張するものの5%である。

2つ目の大きな生贄は最後のもので、彼らの New World Order ルシファー・キングが、いよいよ権力につくとき、そして、3つのすべてのアブラハムによる宗教が根絶されるときであろう。特にユダヤ教が非難され、すべての戦争と世界の破壊の張本人とされるだろう。

そのときまでに、ロスチャイルドは再び、完全に新しい姿に形を変え、それはどんな形のユダヤ教でもなく、世界シオニズムでもないだろう。

記憶すべき重要なことは、ロスチャイルド KM が、第一次大戦後、ドイツを無に帰せしめたあと、ファシズムのための真空をつくり出し、再建してナチズムを起こし、彼らのロシア・ボルシェビズムに対する反体勢力として、ヒトラーを立てたことである。

ヒトラーは、高利がなく、労働者階級に有利な財政システムを導入した。これは、ドイツとドイツ国民に完全な破壊をもたらすものだった。なぜなら、ロスチャイルドとハザール人は、生きるために高利貸しを必要としない経済体制を、決して許さなかったからである。

これと同じことが、今日、イスラムに対するハザールの戦争で起こっている。なぜなら、イスラムは高利を禁止しているからである。これこそ、イスラムが、世界のイスラム民族を破壊することに大声をあげ、戦闘的になる理由である。

KM はこれが、大きな第2次大戦になると予想した。そして彼らがこの戦争の両側を援助したとき、これは世界全体を産業化し、銀行業のマネーパワーを最大限にするのに利用できた。

ロスチャイルド KM は、次に、議会メンバーに賄賂を送って、米兵を前段階の戦場に送らせ、第 1 次対戦を工作する：

利益を最大にするために、すべての戦争の両サイドを財政援助するという、彼らの完全に証明されたやり方の継続として、また連邦の税収入を増やし、国際的な力を増すために、ロスチャイルド-ハザールたちは再び、議会のメンバーに賄賂とゆすりを使って、1917 年、ドイツに宣戦を布告させた。

これは、KM (ハザール・マフィア) の、ルシタニア号を沈没させた、ニセ旗号攻撃によって、容易くなった。

ロスチャイルド KM は、それ以来、これを、ニセ旗攻撃を密かに仕掛ける常套手段としてきた。それはアメリカ人を欺いて、ハザール・マフィアのために戦争をやらせる、標準の作戦計画となった。

第 2 次大戦の終了後、ロスチャイルド KM は、冷戦を展開し、これを口実に使って、ナチスの科学者とマインドコントロールの専門家を、「ペーパークリップ作戦」としてアメリカに連れてきた。

これによって彼らは、以前のどんなやり方にも増して、世界的なスパイや諜報システム確立することが可能になった。

このシステムの下で、彼らは、アメリカのすべての機関に侵入し、ハイジャックし続けており、さまざまなアメリカの教会制度、フリーメイソン(特にスコット儀式やヨーク儀式)、米軍、米情報局、最も私的な防衛請負業者、ユダヤ教、米政府のほとんどの部局、そしてほとんどの州政府と、二大政党もまた含まれている。

ロスチャイルド KM は、ナチの労働キャンプを設けたが、それは後に、パレスチナの彼ら自身の私有植民地に入り込めるように、同盟国を工作するため、それにはパレスチナ人から盗んだ土地を使った：

ロスチャイルド KM は、彼らの、自ら間違っ命名した「ホロコースト」という言葉を使うことができた。これをマインドコントロールの道具として使って、彼らシオニストのいろんなやり方に対する批判を、かわし退けるのが狙いであった。

事の真相は、ロスチャイルド KM がナチの労働キャンプを作ったのは、彼らの企業のために巨大な利益をもたらすことで、それらは彼らのキャンプを運営し、ナチの戦争機械を供給していた。

ひとたびロスチャイルド KM が、ひそかな政治的戦略を用いて 1947 年、イスラエルに、彼ら自身の私的な祖国を獲得すると、彼らはパレスチナ全体を、ひそかに自分たちの新しいハザールとみなすようになり、どのように、すべてのパレスチナ人を抹殺し、パレスチナ全体を自分たちのものにすべきか考え始めた。彼らの計画には、中東全体を占領することによって、「大イスラエル」を建設するというファンタジーが含まれていた。そして愚かなアメリカの Goyim (非ユダヤ人) を操って、彼らのために戦わせて死なせ、すべてのアラブの土地を、イスラエルとハザール・マフィアのために奪うことを考えた。そのようにして彼らは、彼らの富と自然資源、とくに原油を資産収奪することができる。

権威あるユダヤ人 MD による、最近の査読されたジョンズ・ホプキンスの遺伝学研究の示すところでは、イスラエルに住んでいるユダヤ人の 97.5% が、古代ヘブライ人の DNA を全く持たず、したがってセム族でないので、パレスチナの土地との古い血のつながりを全く持たない。これに対し、パレスチナ人の 80% が古代ヘブライの DNA をもっていて、本当のセム族なので、パレスチナの土地への古代の血のつながりを持っていた。このことが意味するのは、本当の反ユダヤ主義者が、イスラエルの居留地を作るために、パレスチナの土地を盗んでいるイスラエル人であり、無実のパレスチナ人を恐怖体制に置き、集団虐殺しているのがイスラエル人なのである。



7 世代に及んで続いているロスチャイルド王朝
銀行家族が 200 年間支配している

[Greatchain 訳注]

ここに一貫して、歴史的に一つながりのものとして、「ロスチャイルド-ハザール・マフィア」として説明されているものを、現在の(疑わしい)バイデン政権と重ねてみるならば、それが並行関係にあることがわかってくるであろう。(ちなみに、論文の筆者は現在のバイデンの存在を知らなかった。)なぜ、バイデンの大統領令は、ことごとくトランプに反対しなければならないか？ それは政策が反対だというより、**宗教が裏返し**だからである。ロスチャイルド-ハザール・マフィアにとって、国籍も祖国も存在しない。アメリカもロシアもイスラエルもない。あるのは自分たちのサタン教と、サタン教に反対するすべての宗教への敵意である。それは反目というようなものでなく、**違うものの存在を許さない強迫観念**として存在する。

彼らが(神を信ずる)トランプを恐がって弾劾裁判にかけ、抹殺しなければならない理由がこれでわかる。また、墮落したワシントンの「膿を出しきらねばならない」などと主張する人々のポイントが、ずれていることも、これでわかる。彼らは、自分たちのサタン教を、「墮落」とも「人倫に悖る」とも「犯罪」だとも考えていないからである。彼らは恐ろしく強いと同時に、恐ろしく弱い人々である。我々は、彼らが何を一番恐れ、何に触れるのが怖いのかを見定めていなければ、戦うことはできないであろう。彼らが恐ろしいのはスピリチュアル(霊的)なものであるから、そういうものを認めない人は戦いようがない。